



縄文土器(勝坂式)  
貫井遺跡出土



複数の竪穴式住居  
貫井遺跡



縄文土器(加曾利E式)  
中山谷遺跡出土

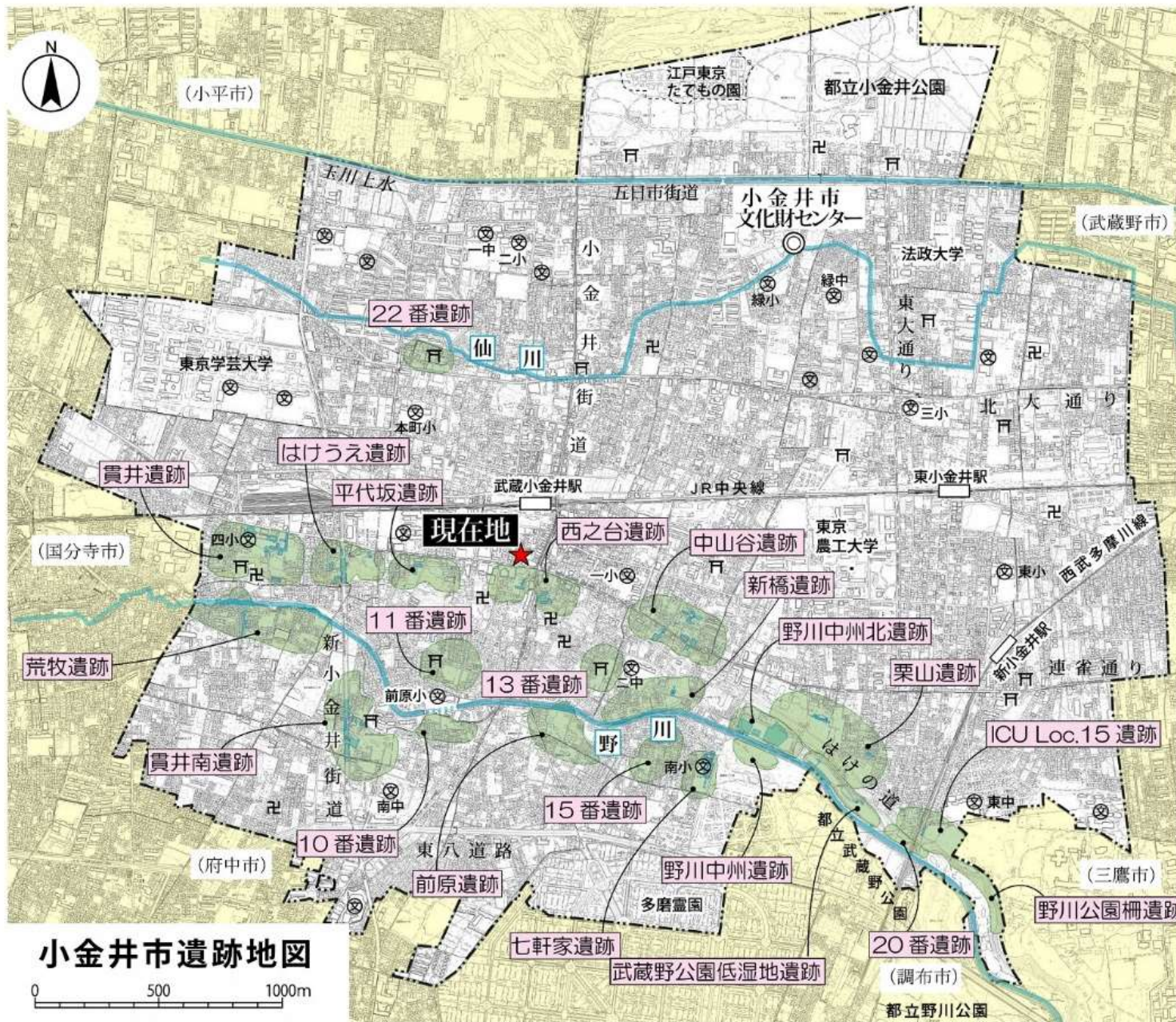
周辺遺跡で発掘調査された一例

## 小金井市 (仮称)本町六丁目遺跡

# 遺跡見学会資料

(仮称)本町六丁目遺跡(小金井市本町6丁目地内)は、平成29年4月から発掘調査を行っています。周辺には、旧石器時代の遺跡として全国的に著名な西之台遺跡(約35,000年前)が連雀通りを挟んで南側に広がります。また、東方には中山谷(なかざんや)遺跡、西方には貫井遺跡という、縄文時代中期(約5,500~4,500年前)の集落(ムラ)がこれまでの発掘調査で確認されています。

今回の発掘調査では、縄文時代の落とし穴や縄文土器をはじめ、江戸時代の溝状遺構、明治~昭和時代のさまざまな時代の生活の痕跡が発見されています。



小金井市遺跡地図

編集・発行  
小金井市教育委員会 生涯学習課  
平成29年6月10日発行

主催 小金井市教育委員会  
協力 武蔵小金井駅南口第2地区市街地再開発組合、  
成和コンサルタント株式会社、株式会社武蔵文化財研究所



調査区上空より撮影 南方を望む

写真手前(北側)は今回の発掘現場で、連雀通り(写真中央)より奥(南側)の市役所を含む一帯が西之台遺跡となります。写真奥には多摩丘陵が見えます。

いこう いぶつ  
 (仮称)本町六丁目遺跡の主な遺構・遺物

【縄文時代】 落とし穴、土坑、縄文土器、石器

【江戸時代】 根切り溝、区画溝、道跡、陶磁器

【明治・大正時代】 溝状遺構、陶磁器

【昭和時代】 防空壕、地下室、建物礎石、昭和元年前後の陶磁器、戦時統制下の陶磁器

道跡【江戸時代】

浅い溝と溝に挟まれた空間が道と推定されます



溝状遺構①【江戸時代】

根切り溝。畑に木の根が入り込むのを防ぐ役割。または屋敷地境。長さ50m以上。上写真は調査前、下写真は調査後。



石器の出土状況

土坑③(縄文時代)より出土



溝状遺構②【江戸時代】

区画溝。複数回に渡って掘り直されています。



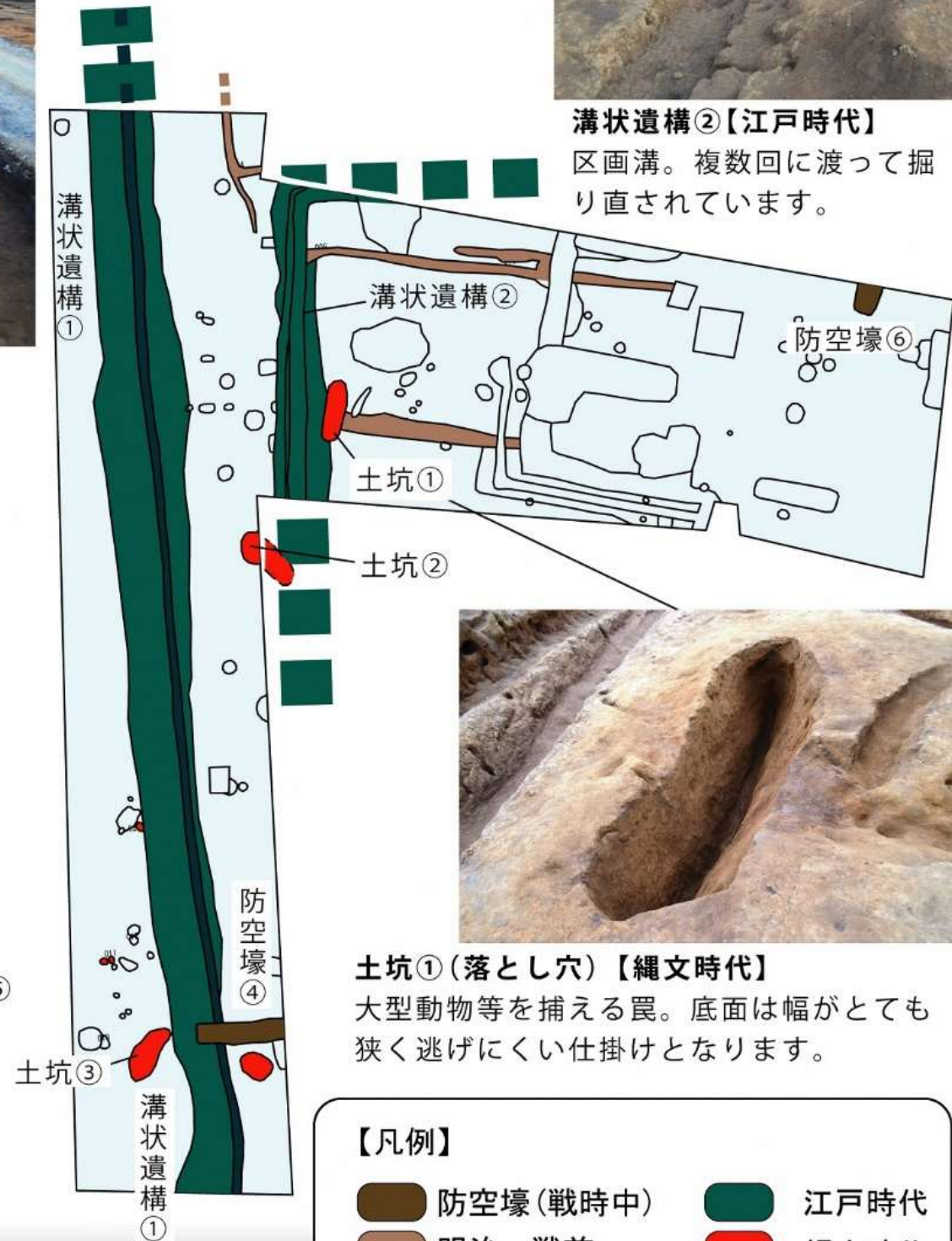
えな 胞衣容器の出土状況

容器の内側に「寿」が陰刻されています



防空壕①～④【戦時中】

約70年前の戦争中に造られた、地下式の避難施設です。形態や大きさのさまざまなものが発見されました。



土坑①(落とし穴)【縄文時代】

大型動物等を捕える罠。底面は幅がとても狭く逃げにくい仕掛けとなります。



連雀通り(旧江戸道)